



しらさぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより NO. 1
(通巻184号)
平成31年(2019)
4月8日(月)

《生徒の皆さんへ》

『美しい花を咲かせよう』

校長 飯野 博史

平成31年度がスタートしました。今日の始業式に「よし、頑張ろう」という決意で臨んだことと思います。今日の新鮮な気持ちを忘れず、充実した一年にしていきたいと思います。

4月1日に新しい元号が発表されました。5月1日からは「令和」という元号となり、新しい時代がスタートします。「令和」には伸び伸びとした成長、平和への願い、伝統の尊重など様々な思いが込められているそうです。新元号に変わる節目の時に皆さんと立ち会えることは貴重なことと思います。記憶に残る年度にしていきたいと思います。

3月末から校庭の桜が満開となりました。皆さんもお花見をしたことと思います。日本人はとくに桜の花に愛着をもち、昔から歌に詠んだり、絵に描いたり、親しんできました。なぜ、日本人は桜の花が好きなのでしょう。長く寒い冬が終わり、やっと待ち望んでいた暖かい春がやってきた、その晴れやかな気持ちをあの淡いピンクの花びらに重ね合わせているのかも知れません。桜の花の命はせいぜい6日か7日しかありません。その花が咲き誇っているときに嵐のような強い風が吹くことがあります。桜の花は、はかなく散ってしまいます。日本人はその桜の花の華やかさやはかなさ、潔さに自分の人生を無意識に重ね考え、愛着をもつのかも知れません。

以前、桜の花についてインターネットで調べていると、こんな質問が出ていました。「桜の花が好きなので一年中花を見ていたいと思います。一年中春のような暖かい地方に桜の木を植えたらいつでも花は咲くのでしょうか。」というものでした。皆さんはどう思いますか。答えは「桜の花は寒い冬があるから開花します。寒い冬がなければ花は咲きません。」というものでした。一年中暖かい所では花は咲かないということです。人間も同じではないのでしょうか。いつも楽しいこと、うれしいことばかりではありません。寒い冬のように、つらいことや苦しいこともたくさんあります。でも、それを経験するからこそ、成長し、美しい花を咲かせることができるのです。

今日から新しい仲間や先生方と新しい生活が始まります。楽しいことばかりではなく、つらいことや苦しいことがあるかもしれません。ぜひ、みんなで力を合わせて乗り越えて、この桜の花のような美しい花を咲かせていってほしいと思います。

新しいスタートを切るにあたって皆さんに三つのことをお伝えします。一つは何事にも前向きに、プラス思考で取り組んでほしいということです。前のクラスの方が良かったとか、仲の良い人と違うクラスになったとか考えるのはマイナス思考です。どうやったら新しい仲間や先生と楽しいクラスがつかれるか、プラス思考で考えていってください。「できない理由」ばかり考えず、「できる理由・やれる理由」を考えていきたいと思います。

二つめは一日一日を大切に、充実して過ごしてほしいということです。時間はあっという間に過ぎていきます。一日一日を大切に、「今」を大切に過ごしていきたいと思います。

三つめは、お互いの違いや良さを認め合ってほしいということです。一人一人がかけがえのない仲間です。とかく人の悪いところが目につき、良いところを認め合うことがおろそかになりがちです。自分にはない、仲間の良さや違いを認め合い、お互いに尊重し合っていきたいと思います。

みんなで力を合わせて、新しい八中をつくっていきましょう。